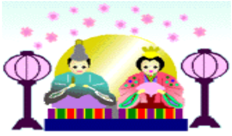
平成23年度　JICA雛祭り着物体験会を終えて



２月２６日の日曜日、寒さがぶり返した寒い朝でした。今日ここで行われるのは、ＪＩＣＡ大阪での最後の行事、雛祭り。ＩＩＮ会員３７名、一般１名、研修員２５名＋？の参加者で繰り広げる意義ある最後の一日です。

準備に早く集まった実行委員と着付披露の練習に集まった会員、そしてほどなく着付を希望した会員の参集。会場設営係がショックを受けたのは、夏の七夕と同様にビュッフェ台がど真ん中に鎮座していたこと。違う、聞いていたのと違う・・・現実を恨みながらも、現実に即した解決策を即断しなければいけない。ＪＩＣＡ行事で問われるのは、いつも「応用力」です。予想外のことをどう解決していくか、何を諦めて、何を取るか。コンパクトながら、良い人生経験にもなるような一瞬。<会員の声>「How to.だけではなく adaptableness がすごいと思います。これだけの企画をあれだけスムーズにこなせるのは我が IIN ならではでしょう。誇れる事と思います。」どうにかする!の会場設営係の一言を信じて、受付に回ります。

<会員の声>「今回の受付は今までで、一番大変でした。でもこれもまた良い思い出。ドタキャンを伝えに来た参加申し込み者の、本当に申し訳なさそうな顔、今もはっきり覚えています。」参加申込をした研修員がちっとも来ない。一体何人を新たに募集したら良いのか、一体いつまで待ったらいいのか。これまた、経験値と判断力の試される場面。<会員の声>「着物渡し係りとしては、着物予約していて、来ていない人用の着物を何時で切って他の人に着せるかの認識が、受付と現場で違っていたので…連絡がうまく取れるとよかったと思いました。」<会員の声>「男性の着物体験の方が、無断欠席とかありましたがまあ、ＪＩＣＡでは、なにがあっても不思議ではないですし、ＩＩＮメンバーもそれにも慣れが見られ、その対応もよかったのではないでしょうか。」そうこの１０年近くで、みんながＪＩＣＡ方式に慣れました。きっちりしているだけではいけない、でもきっちりしていないとグダグダになってしまう、その中間の位置取りがうまくなったのでしょう。絶妙なバランス。結局、本当に必要なことはマニュアル化できないのだと納得。

さて、１２時半になり会員が集合。<会員の声>「皆さんのやってやろう、そして、みんなで楽しみましょうという掛け声でスタートし、とてもよいチームワークでできたと思います。」

受付を済ませた研修員たちが、和室に吸いこまれていく⇒すごくきれいな着物姿で戻ってくる。まるで美人製造機のような魔法。＜会員の声＞「ヘアメイクについては、今回は特にショートヘアの方まで、「私もアップにして！」と、言われるほど、アップスタイルが大人気で息次ぐ暇もなく時間ぎりぎりまで汗だくでやりましたが、とても喜んでいただいて、充実した気分でした。」髪型がとてもきれいにアップになっている！それも全員がアップ！ヘアメイク担当Ａさんが自宅からピンやリボンやシュシュなど全ての材料を持ちこんでの気合の入れようは、ほかの会員から「美容師さんだったの？」と尋ねられるほど。いえいえ、大いなる good will なのです。これ、今回のキーワードかもしれない。＜会員の声＞「 女性着付け担当からの感想です。今回、研修員の方の着物経験に対するすごい意気込みが感じられました。一人の研修員が柄のある足袋を履いてこられたので、用意の良いことにびっくりしました。Aさんがロングヘアのかただけでなく、ショートの方にもうまくアップしてあげて、着物にぴったりの華やかさになり、研修員のかたたちも大喜びでした。着付けは終わっても次は髪、写真と長く部屋にいられるので、ここでの交流が盛り上がりました。」＜会員の声＞「 今回は研修生たちへの着付けの時間が十分あったのでそんなに戦争のような忙しさではありませんでした。でも男性３名が遅れて来たのが　困りましたね　しばらく和室でまっていてスタートが遅れましたから・・・・着せ終わってからも写真を撮ったり鏡を見たりで皆さん和室から中々離れませんでしたね…喜んで感激していましたから。女性はきれいに髪の毛を結ってもらい　着物に似合って皆さんきれいで良かったです。」ここで注目は、いつもは「戦争のように、非常事態の忙しさ」ということ。ずっと着付のまとめ役としてその任を果たされてこられたNさん。実は今は亡きご主人も長くIIN の運営委員をされていて、私を一から指導して下さった方。素敵なお声と笑顔。きっと今日はこの辺に降りていらして、いつものダンディーなご様子で見ていらしているのではないかしら。最後ですものね。先輩、頑張ります！

いよいよ、やっと、雛祭りの開始です。司会のKさん、声を張っての第一声に自信のほどが伺えます。N委員長が「今回が最後の雛祭り、みなさんで楽しみましょう」と挨拶。さあ、開演!?幕が上がって、研修員にもIIN会員にも何だかスイッチが入ったようなｌ!?

【着付披露】

いつもの着付披露ベテラントリオ、Ｎさん･Ｈさん･Ｔさんに今回はOさんがモデルに。食い入るような研修員の眼差しの中、ぴたりと決まる着付の技の美しさ。言葉を交わさずに繰り出される手早いアシスト。この二人の息は見事にぴったりで、長年の蓄積が生み出す間合いの良さです。英語での説明も軽妙で、笑いを取るのはお手の物。特に今回は着物の会員も多く、みんな総出演で華やかですね。

着付を担当のNさんは10年来の参加で、自分の個人的な計画もこのJICA行事を優先して決めているとか。この人がいなければ、そもそもこの着物体験という行事は成り立っていなかったのです。着付披露のモデル探し、振袖の調達、研修員の着付時の指導と総合チェック。当日の着付の全ての責任を担う人材です。Good willに着物を着せたらこんな人に･･･などと思わせる素敵な人が我々IIN の仲間にはいるのです。

【書道披露】

ＩＩＮの人材の豊富さはこの書道家にも表れています。彼女は今回で３回目の披露。人に教えることへのプロ意識が説明資料の準備を万端

にし、英語での説明を準備させ、実演での真剣さを導きます。目の前で繰り広げられる女流書家の筆さばきと見事な作品の出来上がる過程は、研修員たちに驚きの声を上げさせます。お見事！

お土産の「愛」と「春」の色紙をそれぞれの母国で広げる時、墨の香が立つことでしょう。そして、研修員の脳裏にくっきり黒々と、日本の書道の奥行きと潔さが刻まれていることでしょう。

【写真撮影】

てきぱきと会場設営サブリーダーのＹさんが動いています。初参加ながら、いい動きです。椅子を次々とならべて、はいもう出来上がり！まずは研修員の方たちと着付担当の会員の写真です。研修員のカメラで一枚ずつ撮るので、２０回以上の「はい、チ～ズ！」が必要。でもカメラ係が数人自然に集まり、これまでの経験からか何ともスムーズな撮影でした。さてその後に、今回が最後ということで、ＩＩＮ会員全員が入っての記念撮影を敢行。６５名の皆さんがぎゅうぎゅうに収まって、ＪＩＣＡのＮさんが身体を伸ばして腹筋プルプル状態で撮影。出来上がりは・・・壮観！皆さんの想いがぎゅうぎゅう詰まっています。素敵な笑顔と共に成熟した落ち着きが印象に残ります。

【tea time】

班別にテーブルにつき、運ばれてくる和菓子を前に説明を聞きます。和菓子のうんちくになるほど、の後は、賑やかにおしゃべり。

折り紙をする研修員に英語で説明する会員。資料を出して研修員のお国の話を引き出す班長さん。折角の準備なのに、違う国の研修員が来てしまってちょっと残念な班長さんも。今日同じ班の研修員はベトナムの方で、そこに旅行したことがあるという会員は、写真やベトナムのお金を持参して準備万端です。今ここに広がる尽きない賑やかさは、生の communication の持つ素直な興奮と喜びなのでしょうね。

【performance】

司会が前に立って、いよいよ雛祭りの説明。いつものきれいな JICA の七段飾りが一役買っています。神妙な空気のまま、さて、舞台が変わって・・・いよいよ今回の特別公演『高砂』の日舞が始まります。黄金色を思わす輝きの御衣装に深い紫の帯締めがぴしりと決まっています。

最初に分かりやすい英語の説明があり、日舞の歴史ともいうべき「能」からのつながりや所作の意味を教えてもらった研修員たちは、カメラを構えながら少し遠慮気味に前に前にと出てきています。そして『高砂』の謡が流され日舞が始まります。舞い手のTさんのかざすその手の先に光景は広がり、傾げる頭の所作に想いがこもります。日本文化の深さが持つ威圧と緊張。国籍が違う６０数人がお一人の舞に呑み込まれてしまいました。謡が終わり、正座してのおじぎ、そして退場。舞い手が下手に下がりきるまで緊張と厳かさに支配された会場は、一人の拍手ではっと我に返った観客全員の改めての大きな拍手に包まれました。余計なことながら、Tさんが能面の表情から舞台袖でにこっといつもの微笑みに変わるのをみつけて、安心しました。

さて、もう一人の楽しい司会者Kさんの明るい声で空気一変。今度は研修員たちの performance です。最初はケニアのダンス。はぁ〜っと驚きました。ダンス？祈り？お祓い？これは何なのだろうと考えているうちに終わりました。皆さんの戸惑いがばらばらの拍手に表れていたような、いなかったような。でも「違う」ということのインパクトは大きく、国際交流の面白さはこの違いをみつけ、認識して、場合によっては理解まで到達することではないでしょうか。きっと何を忘れても、とにかくこのケニアの方の performance は忘れないでしょう。

次に陽気なウズベキスタンの男性三人の踊り。彼らは“Uzbekistani Power！”と言って、女性二人を加えて後でもう一度登場。明るく楽しい歌と踊りは「楽しまないと損、損」といっているようで、阿波踊りに似ていませんか？

次に少し恥ずかしそうなベトナム女性研修員が登場して、華のような笑顔がこぼれました。彼女たちのダンスと歌が我々に親しみやすいのは、東南アジアの同じ文化圏だからでしょうか。明るい着物の色に映える華たちにつられて、私たちも踊りの輪に。盆踊りのように何の違和感もなく溶け込んでいました。ほらね！

もう一人特記すべき performer はタンザニアの drummer。アフリカの太鼓を持ちこんで、コン!と高い音。ドム!と低い音。自在に操りながらの演奏でした。話術が巧みでその上お人柄も魅力的で、聴衆の心も自在に操ります？そして、間断なくドラムの音が直接お腹の底に響いて、そこがじんわり暖かくなり、なんだか腹を割って分かりあえたような気分！

IIN の人材は多岐に及びます。最後の performance の歌唱は新しい会員の W さん。IIN の貴重な若者です。選んだ歌は『今日の日はさようなら』。最初は少々上がり気味で、そのあとは堂々とアカペラで歌いあげました。会員の中には、もうこの行事ともお別れなのだと、胸を熱くして聞いた人も。そうです、いよいよ大詰めです。

最後の実行委員長の挨拶は､私をずっと支えてくれた実行委員の仲間のひと言、一言で締めくくることにしました。私のサプライズの無茶振りに目を白黒させながらも前に整列した実行委員は口々に英語で挨拶を。みんな結構度胸が付いたなあ…なんて一人悦に入っていたその時です。突然、司会者から花束贈呈！私に？え～っ聞いてない！サプライズ返し、お見事でした。あ～やられた～とドキドキする鼓動をどうしようもありませんでした。訳の分からないうちに私のご挨拶の時間は終わり、最後に司会者の締めがきっちり決まって、とうとう全てが終了。『JICA 雛祭り着物体験会』とこれまで先輩たちの積み上げてきた「JICA 大阪」との歴史に幕が下りました。

　自分がいったい何年間関わったのかも定かではないのですが、先輩たちの流れのままに発展していったこのJICA 行事は、その大きな実りを我々だけでなく外国の研修員にも残してくれたようです。最後にそのこぼれ話を一つ。あ～終わった！とそれぞれに緊張を緩めながら、実行委員の反省会を始めようとしていた時です。先程までうぐいす色の着物を着て参加していたカザフスタンの女性研修員の方が近づいてきました。「私は明日、母国に帰ります。日本滞在の最後の日に、こんなに得難い体験ができるとは思いませんでした。皆さんの hospitality と goodwill に感動しました。この会の運営も本当にうまくいっていましたね。私の経験の中で一番素晴らしい運営でした。きっと準備にたくさんの時間をかけられたのですね。そして、これは私がカザフスタンから持ってきたお土産の最後の二つです。どうぞ受け取ってください。」多分そのようにお礼を言って下って、アクセサリーとスカーフを置いて行かれました。一同、感動！！この一カ月の、この一週間の、この２，３日の大変さがすう～っと身体から抜けていくような気分でした。この嬉しさと充実感があるから、病みつきになるのでしょうか。「もったいないね、このまま終わらすのは・・・。」「またどこかでできないかな」「やれる、やれる！」次のステージがどこになるのかは分かりませんが、またの機会を得られれば、きっと我々IIN の会員はさっと集まり、それぞれの持ち場を十分こなして、外国の方たちに「日本人の文化と心」をお見せできると信じて止みません。また、みんなで新しく楽しい会を創り上げていきましょう。